

No	感染症(PT)	出典	概要
99	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年5月2日	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。死体は管理下におかれ、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報によると当該牛は66月齢で、生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
100	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年7月25日	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。カナダで10頭目のBSE牛である。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。当該牛は2001年11月10日生まれホルスタイン牛で、死亡時66月齢であった。当該農場で出生し、外に出たことはなかった。この農場で成長した156頭について出生コホートが実施された。飼料コホートの結果、禁止物質が飼料製造所に供給されていたことが明らかとなった。
101	BSE	ProMED-mail20070208.0499	2007年2月7日、Canadian Food Inspection Agency (CFIA)はAlbertaの成牛はBSEであると確定した。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
102	BSE	ProMED-mail20070302.0734	ニュージーランド食品安全局はBSEを取り巻く最新の科学と実際の知識を踏まえて、ウシ及びウシ加工品の輸入規制を改訂する方針である。新しい規制は科学的証拠や最近の国際的な規制に合致したものとするため、輸出する国のBSEリスクステータスの分類に、国際的に認められた3カテゴリーシステムを導入する。ゼラチンは、原材料の起源およびBSEリスクのある国からの輸入を問わず、全てのゼラチンの売買が自由化される。
103	BSE	ProMED-mail20070308.0813	2007年3月6日、CFIA (Canadian Food Inspection Agency) はカナダにおける最近のBSE牛の総合的な調査はまもなく完了すると発表した。そのウシは2000年に生まれ、死亡時は少なくとも6.5歳であった。
104	BSE	ProMED-mail20070502.1430	2007年5月2日、CFIAはBritish Columbiaの乳牛がBSEであると確定した。死体は管理下におかれ、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報によると当該牛は66月齢で、生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
105	クロイツフェルト・ヤコブ病	2007年プリオン研究会 Poster-20	日本の人口動態統計では、CJDによる死亡は過去20年以上に渡り増加傾向を示し、2005年は人口100万対1.23人であった。CJDサーベイランス委員会による調査では過去8年間に918例がプリオン病と判定された。病型別では、孤発性CJD 716例、遺伝性プリオン病 128例、感染性(獲得性)CJD 72例(変異型CJD 1例、硬膜移植後CJD 71例)、および分類不能 2例であった。
106	クロイツフェルト・ヤコブ病	Arch Neurol 2007; 64: 595-599	行動および人格変化の後、速い進行性痴呆を呈した69歳女性の脳の死後剖検で、細胞内プリオン蛋白沈着およびアミロイド線維による軸索腫脹が見られた。病原体プリオン蛋白の生化学的分析の結果、ジグリコシル種を欠く未知のPrPSc3次元構造が明らかになった。遺伝子分析の結果、野生型プリオン蛋白遺伝子であった。このプリオン病原体はハタネズミでの継代に成功した。新規の病原体プリオン蛋白の細胞内蓄積による新しいプリオン病が明らかとなった。
107	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2007; 13: 162-164	1999年4月から2005年3月まで日本のCJDサーベイランス委員会に登録されていたプリオン病患者について分析した。日本のプリオン疾患患者597名のうち11名(1.8%)が、発症の前後1ヶ月以内に眼科手術を受けた。眼科医はいずれもプリオンタンパクの感染性を除去するには不十分な滅菌しか行われていない手術器具を再使用していた。眼科医は、プリオン疾患が眼症状を引き起こす可能性があることを認識し、可能な限り使い捨て器具を使用すべきである。
108	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 77: 880-882	CJDサーベイランスの結果、1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシープエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。ブタ硬膜片レシープエントは1型PrPresの広汎な蓄積を示し、発症年齢、疾病期間、臨床症状、脳液などから孤発性CJDと考えられた。
109	クロイツフェルト・ヤコブ病	第6回 CJD二次感染 予防に関する対策検 討会 平成19年12月 20日	日本で平成11年4月から19年2月16日までにCJDサーベイランス委員会に登録されたCJD症例数は897例であった。CJD二次感染リスク低減のため、CJD感染性が高いハイリスク手技に用いられた手術器具等の再使用に際し、現時点で推奨される処理として、適切な洗浄+3%SDS 3-5分煮沸処理などを示した。またCJD診断以前に行われた脳外科等の手術器具を介したCJD二次感染リスク保有可能性者への対応について、医療機関に対し助言を行うとともに、専門家組織の設置を提言した。